

第五回ヘリテージ感想文

第 66 回日米学生会議実行委員長の小松崎遥平と申します。今回は、ユースフォーラムジャパンより、第 5 回 YFJ ヘリテージに招待頂きました。この会合は、第 66 回の激励会としての意味もこめて毎年開催されているものです。会場である日本外国特派員協会の廊下を歩きながら、各界の著名人の写真が入った額を眺めていると、昨年、私が一会議参加者としてこの会合に参加させて頂いた時の記憶が想起されました。YFJ 顧問である愛知和男様のご講演にはじまった会合には、官民学の各界からご講演者がお越しになり、今夏渡米する学生に対して、大変示唆に富んだスピーチをしてくださいました。まず、ポール・マッカーシー様より、「宗教と文化」というテーマでご講演を頂きました。普段は無自覚である両者の関係について、改めて興味を喚起されました。「日本人が何者であるかを理解する上で大変有意義なご講演であった。一般的に無宗教と言われる日本人だが、その中にも仏教や神道などの宗教が根付いており、日本人の考え方の土台となっているように感じた(鈴木良佑、明治大学商学部)」という声もありました。次に、駐日米国首席公使として活躍され、この度本国へお戻りになるカート・トン様が「進化する日米関係」についてお話しされました。学生会議で実行委員長をお務めになった後、日米関係の維持・発展に従事されたこともあり、「集团的自衛権や日米安全保障に関する示唆(奥谷紘子、京都大学法学部)」や「普段座学で学んできたこととは異なる視点(近藤直佑、慶應義塾大学法学部政治学科)」に触れることができ、非常に有意義でした。最後に、東京財団の渡部恒雄様からご講演を頂きました。「東アジアと日米関係の展開」というテーマであり、ともすれば日米両国のみにフォーカスしがちな学生会議の議論に、多角的な視点を与えて頂きました。過去何十年も積み上げてきた JASC の友情をグローバルに広げる必要性を、痛感しました。

その後の懇親会では各界の大先輩の貴重なアドバイスを頂きましたが、トン公使とお話した際は、「日米学生会議は、非政府交流のプラットフォームとして重要な可能性を秘めている」とのお言葉を頂き、会議創立 80 周年となる今回の実行委員長になった幸せをしみじみと感じると同時に、今夏の会議を成功させる決意を新たにしました。最後に、山本様のご帰国なさるトン公使へ贈られたお話の中で、戦前最後の学生会議(第 7 回)の報告書に掲載された写真の見出しである「Sayonara, but not

forever」という言葉を引用されて、それがとても印象的でした。

=====

小松崎遥平

第 66 回日米学生会議 実行委員長
慶應義塾大学 法学部法律学科 4 年